

令和元年度 第2回朝倉市地方創生会議 議事概要

1. 会議概要

日 時	令和元年10月29日（火）19：00～20：30	
場 所	朝倉市役所 別館第1・2会議室	
出席者	委 員	出席：9名 欠席：1名
	朝 倉 市	総務部長、 事務局（総合政策課）4名
次 第	1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議事 （1）朝倉市人口ビジョン（素案）について 4. その他 5. 閉会	
配布資料	朝倉市地方創生会議委員名簿 （資料1） 朝倉市人口ビジョン（素案） （資料4） 第1期朝倉市総合戦略の取組と総括（中間） 2019年10月修正 （参考資料1） 朝倉市人口ビジョンの将来推計と実際の人口の比較 （参考資料2） 人口ビジョン（素案）へ追加する項目	

2. 議事要旨

（2. 会長あいさつ）

- ・朝倉らしい季節だなという感じがする。人口ビジョン・人口動向分析ということで、テーマに基づく人口分析となっている。しっかりみなさんの意見を伺いたい。今日はよろしく願う

（3. 議事）

（1）朝倉市人口ビジョン（素案）について 資料1 参考資料2

委員名	意見、考え等
A	11頁～12頁について福岡市や久留米市に転出は分かるが、近隣市町村に移動している理由は何か分かるか。
事務局	まだ分析できていない。朝倉市から進学等で転出した住民が30代で戻ってきていない傾向がある。ある市ではいったん出ていくが、その後30代になると戻っている。朝倉市は定住地選ばれていない。朝倉街道駅など福岡都市圏へ通勤に便利な点が近隣市町村が選ばれている要因の一つであるかもしれない。
B	外国人登録者について、市の施策として外国人を呼び寄せている事業があるのか、自然のながれや民間にまかせるのか。
事務局	市の施策はない。国策で働き手不足解消のためやっているものはある。外国人を含め、障がい者の方、高齢者の方など、国籍・年齢・性別に関わらず皆が暮らしやすい「共生の社会づくり」というものは自治体の動きとしてある。
C	技能実習が60%とまさに国の施策により製造業・農業・福祉関係の仕事で朝倉に入ってきているのだろう。
D	地区別推計人口等のデータはHPで出ているか。

委員名	意見、考え等
事務局	前回の人口ビジョンについては公開している。今回についても確定後、HPでお知らせする。
D	データを見るとショックだ。山間地の過疎が加速化するのではないかと。将来に希望が持てない悲観要素になるのではないかと。
C	公表する前にパブリックコメントを行うと思うが、事務局の考えはどうか。
事務局	改定する人口ビジョンとこれから策定していく第2期総合戦略を整理して説明させていく。人口ビジョンは統計上の数字を見て、いろいろな角度から分析し、現状がどうなっているのか。また、将来にわたってどういう仮定を立てられるのか整理するもの。人口ビジョンは将来推計をきちんと示していくことが大事である。冷静にデータを見ていただきたい。総合戦略は、推計通りに人口減少しないためにどうするのかというもの。例えば、合計特殊出生率1.86を2025年や2030年に実現する目標を立て、それに向けてどのような施策を打っていくのかというもの。 人口ビジョンを5年後に見直す予定はなかったが、たった5年間で人口ビジョンの推計と2015年国勢調査の結果で1,000人の乖離があり、減少幅が大きかった。そのため、時点修正、今の時点に修正するものである。人口減少の結果を踏まえて、第2期総合戦略でそれをどう解決するのかについて考えていく。厳しい数字ではあるが、人口ビジョンを見つめつつ、どういう手を打っていくか考えることが大事である。 また、人口ビジョンそのものは、パブリックコメントを行わない。総合戦略はパブリックコメントを行い、その資料として人口ビジョンを提供する。そのような位置づけとなる。
D	人口ビジョンのデータを基にした具体的な提案が総合戦略にない。戦略があまりにも抽象的な表現だ。例えば、保育所の入所基準を緩和する等、具体的な事業・施策を細分化して提案し評価をしないとイケないのではないかと。人口ビジョンと総合戦略を結び付けてほしい。
事務局	総合戦略は大枠の部分を書いている。具体的にどうやっていくかは実施計画があり、その中で個別に新しい目標を立てたり新しい事業を見出したりする。今後、会議の中でそれらを結び付けて説明できるようにしたい。
E	地区別人口推計は一律の条件による推計は意味がないと感じる。次回は別の推計を示すということなので、期待したい。
事務局	次回示す地区別人口推計についても人口増減の要素は3つ（出生・死亡・移動）しかない。（人が集まるような施設があっても）施設については統計上の推計に考慮はされない。その地区の人口がどう動くか、子どもと女性の割合がどう変化するか。社人研推計にあるような条件を各地区に当てはめることとなる。
D	来年国勢調査があるが、その結果、被災地の数値は極端に悪くなる（減少する）。その懸念がある。長期避難世帯の認定が解除されて元の場所に帰ってくる見込みがあるような動向についてはどのようにお考えか。
事務局	今回の人口ビジョンをつくるにあたり2010年・2015年の国勢調査を基に推計するので、災害による人口関連は反映されない。次回5年後に改定する場合は2015年・2020年の国勢調査が基となるため反映される。
C	被災地に関しては次期になるということか。
A	“ビジョン”という言葉は理想像を連想させる。ビジョンというタイトルをつけるなら、対策部分が厚くならないとイケない。良い方向が見えてくるものこそビジョンだと思う。
事務局	今から説明をしようとしていたが、25頁から人口の将来展望について説明し、次回の会議で将来展望を示す。
F	ビジョンをつくるために分析や結果を説明することは大事だが、聞く時間が長い。事前に資料はいただいている。今後どういったことに関して話し合うのか、考えていくのか、委員会のビジョン、スケジュールが分かると希望を持って会議に臨めると思う。委員会の今後の方向性はあるのか。
事務局	この会議の進め方だが、今回までの第1～2回は人口ビジョン等のデータや分析等の説明になる。これを踏まえて総合戦略の策定に臨む。次回はビジョンを確定したい。その後は総合戦略（どういうことをすれば目標を達成できるのか）の骨子を練っていききたい。
F	4回以降の委員会の未来像は決まっているのか。
事務局	4回目、12月の委員会では総合戦略の骨子を肉付けしていく。具体的な議論をしていただきたい。1月以降については、戦略の素案のパブリックコメントを行いたい。12月の委員会の中で総合戦略の素案を固めたい。パブリックコメント後、意見に基づき修正を説明したい。合計5回を予定している。

委員名	意見、考え等
事務局	<p>総合計画を1年前策定した。パブリックコメント期間は3週間と長いため、途中経過を報告させていただくために会議を開催させてもらった。パブリックコメント後、出された意見をどう取り扱うか会議をさせていただいたという経緯がある。そのため、同様に考えると、本年度は最低5回、もしかしたら6回開催させていただくことになる。第2期総合戦略(案)を示して、議論させていただくために、開催回数については、今後相談させていただきたい。</p>

(4. その他)

C氏：先日、A県B町の方とお話しする機会があった。どの自治体も地方創生会議のような取組があり、だいたい3, 4回開催しただけで終わったという話が合った。朝倉市は第1期総合戦略を踏襲するとしても新たな視点も含めて考えていかなければいけないと感じた。

(5. 閉会)

日程は調整し、後日連絡。

以上